

# 上宮寺通信

第六十六号

## 諸行無常の世の中

のんびりとお正月気分に戻っていた元旦に大変なことが起こりました。能登地方を襲った震度7の巨大地震。震源地近くでは津波も起こり、道路はひび割れ各地で寸断。家屋が倒壊し多く犠牲者が出ました。被災者はいまなお寒い避難所での不慣れた生活を強いられています。

こんな光景をテレビで見て、13年前の東日本大震災で被災した女の子の言葉を思い出しました。「いままで当たり前だと思っていたことが当たり前ではななんだということがわかった。これまで本当に幸せだったんだと思う」。

私たちは今日とさほど変わら

ない明日がやってくると思っ  
ています。当たり前のようにご飯  
を食べ、当たり前のようにテレ  
ビを観て、当たり前のように布  
団に入って寝て、当たり前によ  
うに朝が来る。あまりに当たり  
前すぎて、それが幸せだとか、  
ありがたいことだなんてあまり  
思っていません。

お釈迦様はなぜ仏陀(覚者)

となられたのか。それは世の中  
の真理、「諸行無常」を悟られた  
からです。あらゆるものはすべ  
て縁によって成り立っている。

それだけで存在しているものは  
何もない。私たちが当たり前  
に存在していると思っているもの  
が、実は当たり前でなく、たま  
たま縁があつて存在しているだ  
けということなのです。

ありがたいというのは漢字で  
書きますと「有難い」となりま  
す。「あることが難しい」です。  
まさに無常です。無常というこ  
とが本当にわかったら、ただい  
まここにこうして「在る」とい  
うことに対して感謝の気持ち  
がわきおこってくる。これが「あ  
りがたい」ということなのでし  
ょう。

親鸞聖人が生きられた時代も  
天災により多くの人が亡くなる  
ことがたびたびあったよう  
です。

『末灯鈔』には「なによりも、  
こそごとし、老少男女おおくの  
ひとびとのしに候うらん  
ことこそ、あわれにそうらえ。  
ただし、生死無常のことわり、  
くわしく如来のときおかせおわ

しましてそうろうえは、おど  
ろきおぼしめすべからずそうろ  
う(何よりも、去年から今年に  
かけて、多くの老若男女が(災  
害によって)亡くなられたこと  
悲しく思います。ただし生死無  
常の道理は、お釈迦様が詳しく  
説いておられます故に驚いては  
なりません)」

そう記される親鸞聖人のお言  
葉は、私たちに「一日一日を大  
切に生きよ」と教えてくださっ  
ているような気がします。

令和6年能登半島地震で  
被災された方々には心より  
お見舞い申し上げます

◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日(金)

春のお彼岸・永代経法要

時間：午前10時

法要 引き続き 法話

(正午頃終了予定)

法話：林 祥真師(一宮市禮讃寺)

※午後の法要、お齋、呈茶はごい  
ません。

※軽食を用意いたします。



◆話題あれこれ

○とても穏やかな年末年始で、元旦の「修正会」にも多くの方にお参りをいただきました。『正信偈』を唱和した後は、コロナ禍で中止していたピング大会を今年は復活。お参りいただいた皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。

○まさかその「修正会」の数時間後に能登地方で大地震が発生するとは…。穏やかなお正月気分も吹っ飛んでしまいました。



○北陸地方は真宗大谷派(東本願寺)の寺院が多数ある地域です。今回の地震で寺もかなりの被害を受けているとのこと。宗派も人の派遣や物資を送るなど災害救援を行っています(詳しくは「東本願寺」のホームページをご覧ください)。

○3月8日に「春のお彼岸・永代経法要」をおつとめします。ぜひ皆様のご参詣をお待ちしております。

○行動制限などはありませんが、新型コロナウイルスの第10波が来ているようです。インフルエンザにも注意が必要です。体調を崩しやすいこの時期、皆様も十分お気をつけください。

【雑感】

「修正会」が終わり、ゆっくりしていたら、スマホの緊急地震速報がけたたましく鳴りました。しかし自分の身体はまったく動けず。こういうときはすぐに避難経路を確保したり、身を守ったりする行動が必要なのに、ただ立ちすくんでスマホの画面を見ているだけでした。しばらくして揺れが来ましたが、幸いなことにこの地方は被害が出るほどの大きさではありませんでした。近い将来に南海トラフ巨大地震がやってくるといわれています。とっさの行動ができるのかと我ながら心配になってきました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年一丁目十九番十五号

☎052-871-0547